

竹とともに

永田 勝実 (ながたかつみ)

【プロフィール】

昭和14年(1939年)生まれ
 長崎県島原市出身。昭和43年より平塚在住
 平成9年竹遊会入会、現在副会長兼事務局
 平成18年4月第46回伝統工芸新作展入選

「平塚に竹の文化を！」を合言葉に、市内の様々なイベント、地域の子供会、市内の小学校行事等に積極的に参加し、竹の文化の普及につとめています。活動の母体は「竹遊会」です。

竹芸教室は、平塚市の「ひらつかカルチャー教室」の講座の一つとして、昭和59年(1984年)に開講されたのが始まりです。教室の受講生を母体として竹遊会が結成され今年で22年になります。竹芸教室はその後カルチャー教室から竹遊会に移りました。指導は大磯在住の日本工芸会正会員の藤塚松星先生に昭和59年の発足当時から今日まで引き続きお願いしています。

竹細工と竹芸(または竹工芸)の違いは、ものを作るときの意識の違いにある。前者は使用に不都合がなければ良しとし、後者はさらにその上に、作者や使用者、鑑賞者の精神をも満足させるものでなくてはならない。その意味では、両者は目指すところが違う。竹工芸では少なからず自分の何かを作品を通して表現しようとする意識を持つことが必要であると、藤塚先生はお話しされています。

竹遊会はこの意識のもと綿々と引き継がれ今日にいたっています。

会員は、現在約50名で平塚市内はもちろんのこと大磯、二宮、茅ヶ崎、秦野、横浜、相模原等から来ている人もいます。竹工芸を教える教室は全国的にも少なく、竹に興味のある人は遠くからも通っています。

竹遊会の目指すところは二つあります。一つは会員の技術の研鑽向上に努めること、もう一つは竹工芸の普及を通しての地域への貢献です。

最近、子供たちに対する支援活動が多くなりました。最近では、大原地区子供会、南原地区子供会で、竹とんぼ・竹笛・風車づくり、さらには竹を使った自由工作を手伝いました。松ヶ丘小学校、南原小学校では総合学習の一貫として行われた竹工作にも協力しました。常日頃ノコ、ナタ、ナイフ等を使って竹工作をする機会のほとんどない子供たち、工作が始まると目をかがやかせて時間がたつのも忘れて工作に没頭していました。

後日、学校から子供たちの感想文が送られてきました。『ノコギリで竹を切るのはむずかしかったがとても楽しかった。』

『竹でポックリ下駄、虫かご、コースター、貯金箱など色んなものが作れるのにびっくりしました。』『またぜひやりたいです。』私たちから見れば当たり前のことが、子供たちには新鮮に映り竹に対して強い関心を示してくれたこと、また、もの作りの楽しさを実体験でき喜んでくれたことが驚きでした。子供たちが喜んでいるのを見ると、またやってみようという気持ちになります。

これからも子供から大人まで幅広い市民に竹の文化を、竹の良さを伝えていく活動を続けていきたいと思えます。

私ごとですが、この4月の「第46回伝統工芸新作展」(日本工芸会東日本支部主催)に私の花籃(はなかご)「葦舟」が初入選しました。一般の人が入選することは難しいといわれている作品展ですので喜んでます。これからも皆さんに感銘

を与えるような作品づくりに励みたいと思っています。また、このことが竹工芸づくりを目指している竹遊会の皆さんの励みになれば幸いです。



七夕竹工房講習会 (H17.7)

「第46回伝統工芸新作展」入選作品
花籃(はなかご)「葦舟」